



あと12日経つと、年長児たちは卒園の日を迎えます。

そして年少児たちと年中児たちも進級バッジの授与の日を迎えます。

49回目の卒園式となります。96名の年長児たちが夢の翼を広げて飛び立ちます。又、年少児たちと年中児たちも、こんどは何色のクラスバッジになるのかドキドキ・ワクワクしながら、その日の来るのを待ちます。

■コロナ対策として園の行事は色々スタイルを変えたり取り止めになって来ました。

毎年毎月のおたんじょう会は全園児がホールに集まって、誕生月のこどもたちの保護者の才と唄のうたの年長組の保護者の才と一緒にしました。

一人ひとり着せ替えパレードを交えて入場する思い出の行事。早く元にごどしたいですね。



■3月16日(火)は「お別れ会」です。

卒園と言うお別れの日を前にして、これまで仲良くあそんでくれたり、いろいろとやさしくしてくれたり、おしえてくれてありがとうございましたという気持ちを伝え、

小学校へ行くとがんばって！という気持ちも伝えます。

ケーキを食べながらのひととき、この日はお弁当です。大好物のお弁当にしてください♡

これまで年長児たちはこの五つの力の土台を作ってきました。これからの学校生活でこの一つひとつをしっかりと力にしなければなりません。

聞く力 話す力 取り組む力
まもりを守る力 友だちをつくる力

根を養う

哲学者でもあり、教育者として名を馳せせた森信三先生が「日本の教育界の国宝」とまで言われた東井義雄先生の言葉です。

「根を養えば樹は自ら育つ」

「高く伸びようとするには、しっかり根を張らねばならない。基礎となる努力をしないと、強い風や雪の重みに負けて倒れる」

「教育とは、こども達の心の根を養うことである」

次は東井義雄先生の根を養う要諦です

我が子が小学校高学年になりましたら読ませてください。

- ほんとはつづく。つづけるとほんとはなくなる。(早朝マラソンする女子中学生への言葉)
- あすがある、あさってがあると考えている間はなんにもありはしない。かんじんの今さえないんだから。
- 自分は自分の主人公。世界でただ一人の自分を創っていく責任者。
- 問題に追いかけるのではなく問題を追いかけよう。
- 一を粗末にしては二に進めない。三、四、五、六、七、八まで進んでも、まだ九(苦)を越えなければ十の喜びはつかめない。
- 意味というのは、こちらから読みとるものだ。

ねうちというのはこちらが発見するものだ。すばらしいものの中にいて意味が読みとれず、ねうちが発見できないなら瓦礫の中にあるようなものだ。

東井義雄先生は、熱意あふれる教育指導が評価され、広島大学より「ベストロケット賞」を授与され、

「その根を養い育てる培其根」は教育者として東井教師を際立たせることだった。

毎年の小学校卒業生への色紙の言葉です。心に深く迫ります。